

外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 8

まじゅつ
魔術



日本NPO法人 日本語多読研究会 主编

芥川 龙之介 (日) 原著

木戸 英子 (日) 缩写

尾关 健治 (日) 插图



外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 3 8

まじゅつ
魔術



日本NPO法人 日本語多読研究会 主编
芥川 龙之介 (日) 原著
木户 英子 (日) 缩写
尾关 健治 (日) 插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01 - 2008 - 1938

© Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

外研日语分级读库. Vol.2. 3 ⑧ / 日本NPO法人日本語多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2009. 1
ISBN 978 - 7 - 5600 - 8121 - 2

I. 外… II. 日… III. 日语—语言读物 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 006902 号

出版人：于春迟

责任编辑：刘 军

装帧设计：王 军

出版发行：外语教学与研究出版社

社 址：北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址：<http://www.fltrp.com>

印 刷：北京国邦印刷有限责任公司

开 本：880×1230 1/32

印 张：1

版 次：2009 年 2 月第 1 版 2009 年 2 月第 1 次印刷

书 号：ISBN 978 - 7 - 5600 - 8121 - 2

定 价：34.90 元 (全五册)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话：(010)88817519

物料号：181210001

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

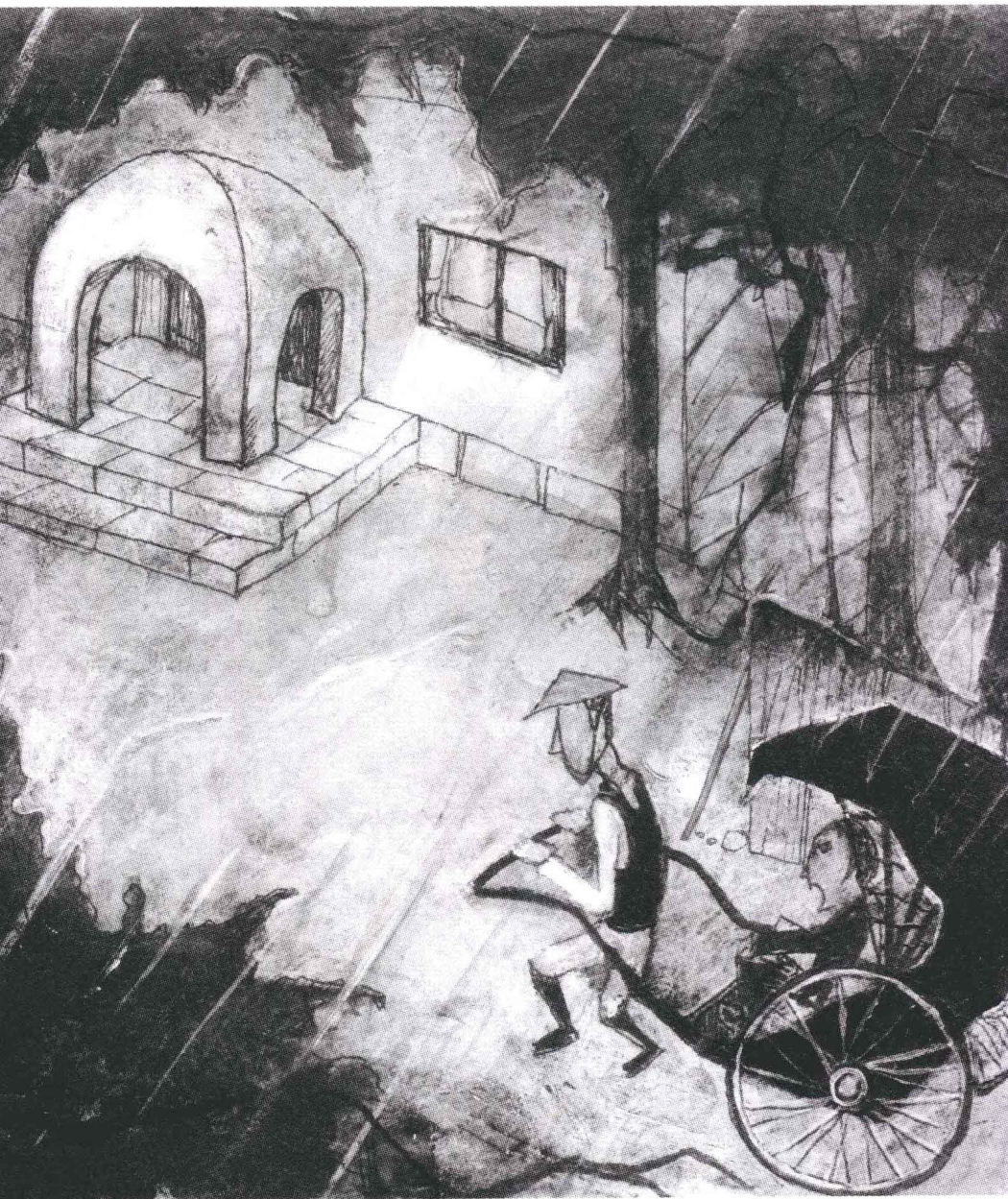
「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

ある秋の夜のことです。

その日は、雨が降っていました。私は人力車に乗って、狭くて暗い道を通って、やっと小さな家の前に着きました。外国の建物のような家でした。家の周りには木がたくさんありました。玄関には表札がかかっています。よく見ると「インド人マティラム・ミスラ」と書いてあります。

ミスラ君はインドで生まれました。まだ若いですが、有名な魔術師です。私は一カ月ぐらい前に、ある友達にミスラ君を紹介されました。仕事や国のことを話したことはありませんでしたが、ミスラ君が魔術を使うのは、まだ見たことがありませんでした。ですから、「今度、魔術を見せてください」と、何日か前に手紙を出しました。そして、今夜、家まで来たのです。





私は、玄関の呼び鈴を鳴らしました。

すると、すぐにドアが開いて、背が低い日本人のおばあさんが出てきました。このおばあさんは、ミスラ君の食事を作ったり、家の掃除をしたりしています。

「ミスラ君はいますか」

「はい。さつきから、あなたを待っていますよ」

おばあさんは、にこにこ笑いながら言いました。そして、ミスラ君の部屋に私を案内しました。

部屋に入ると、ミス

ラ君がいました。ミス

ラ君は、色が黒くて、

目が大きくて、口の周

りにひげがあります。

「雨が降っていて大変

だったでしょう」

と、ミスラ君が元気に

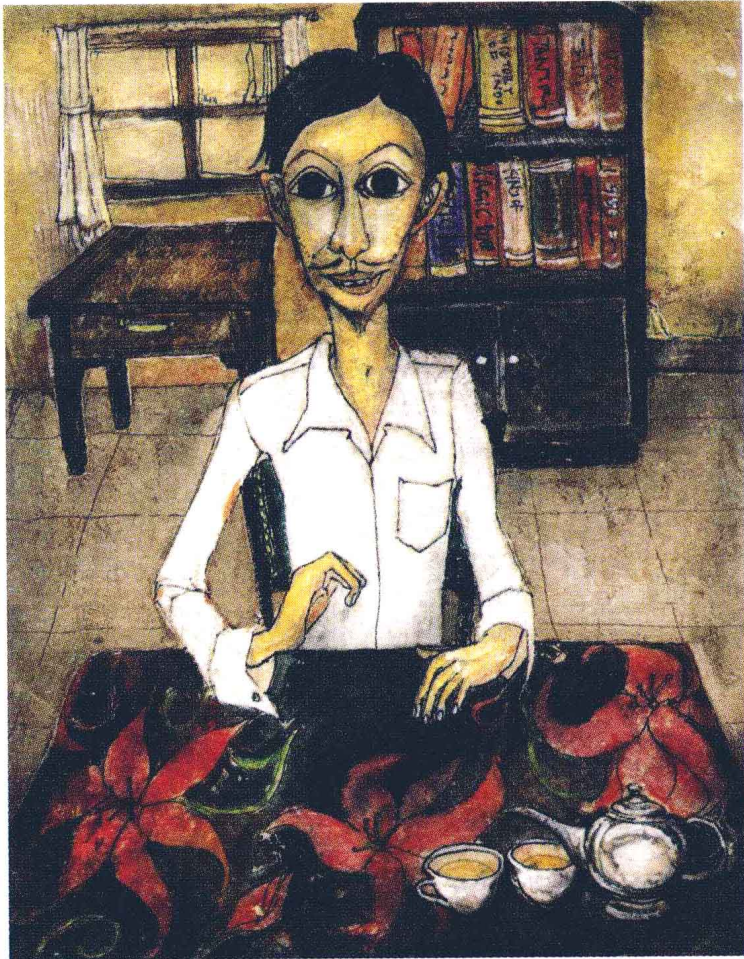
言いました。

「いいえ、あなたの魔

術を見ることができ

るなら、少しも大変

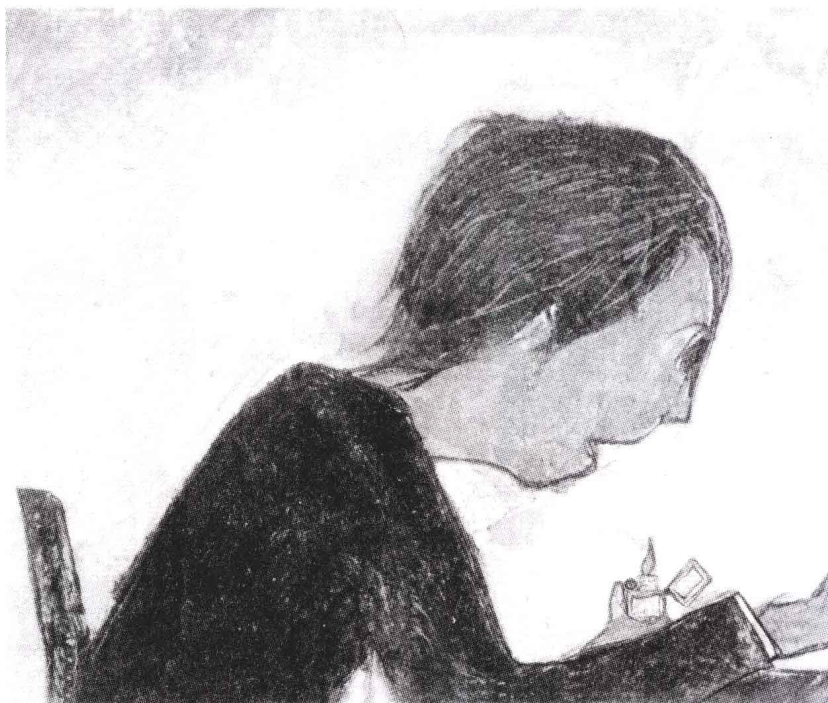
じゃありませんよ」





私は椅子に座ってから、少し暗い部屋の中を見ました。真ん中にテーブルが一つ、窓の前に机が一つ、その横に本棚が一つあります。他には、私たちが座っている椅子があるだけです。部屋の中にある物は、どれもとても古い物でした。赤い花が描かれた布がテーブルに掛かっていましたが、その布も、とても古い物でした。

私とミスラ君は、しばらく外の雨の音を聞いていました。とても寂しい音です。そこへ、おばあさんがインドのお茶を運んできました。ミスラ君は、たばこ



の箱を開けて、

「どうですか、一本」

と言いました。

「ありがとうございます」

私は、たばこを一本取って、火をつけながら言いました。

「これからあなたが見せてくれる魔術は、難しいものですか」

ミスラ君も、たばこに火をつけて吸いました。いい匂いがあります。

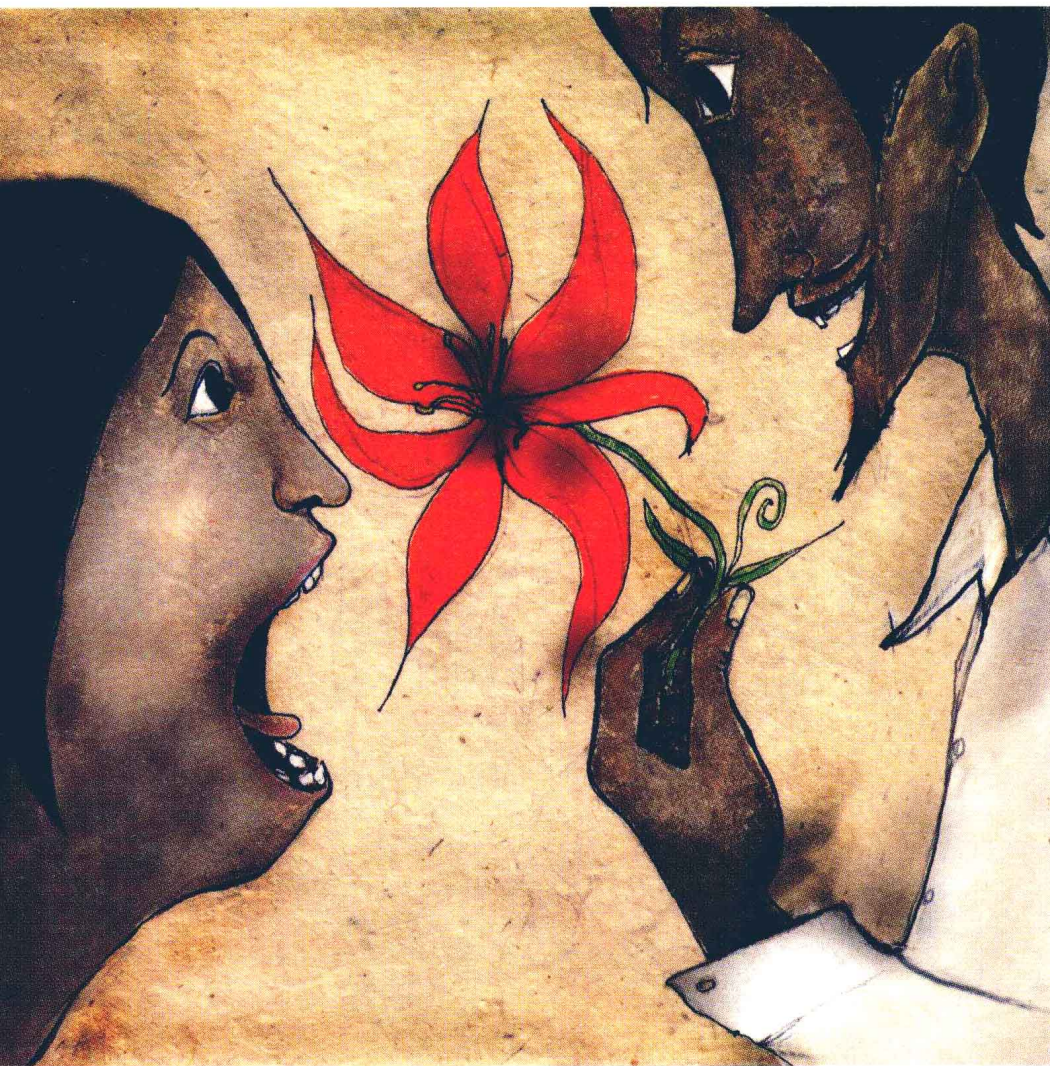
「いいえ、難しくありませんよ。私の魔

術は、使おうと思えば、あなたにも使

うことができますよ。見てください」

ミスラ君は手を上げて、私の目の前で、三回、字のようなものを書きました。次に、その手をテーブルの赤い花の絵の上に下ろしました。それから、その手を上げました。すると、その手には赤い花がありました。私はびっくりしました。それは、テーブルの布に描いてあった花です。ミスラ君がその花を私の顔の前へ持つてくると、甘い花の匂いがありました。「おお、すごい！ どうしてそんなことができるんですか」

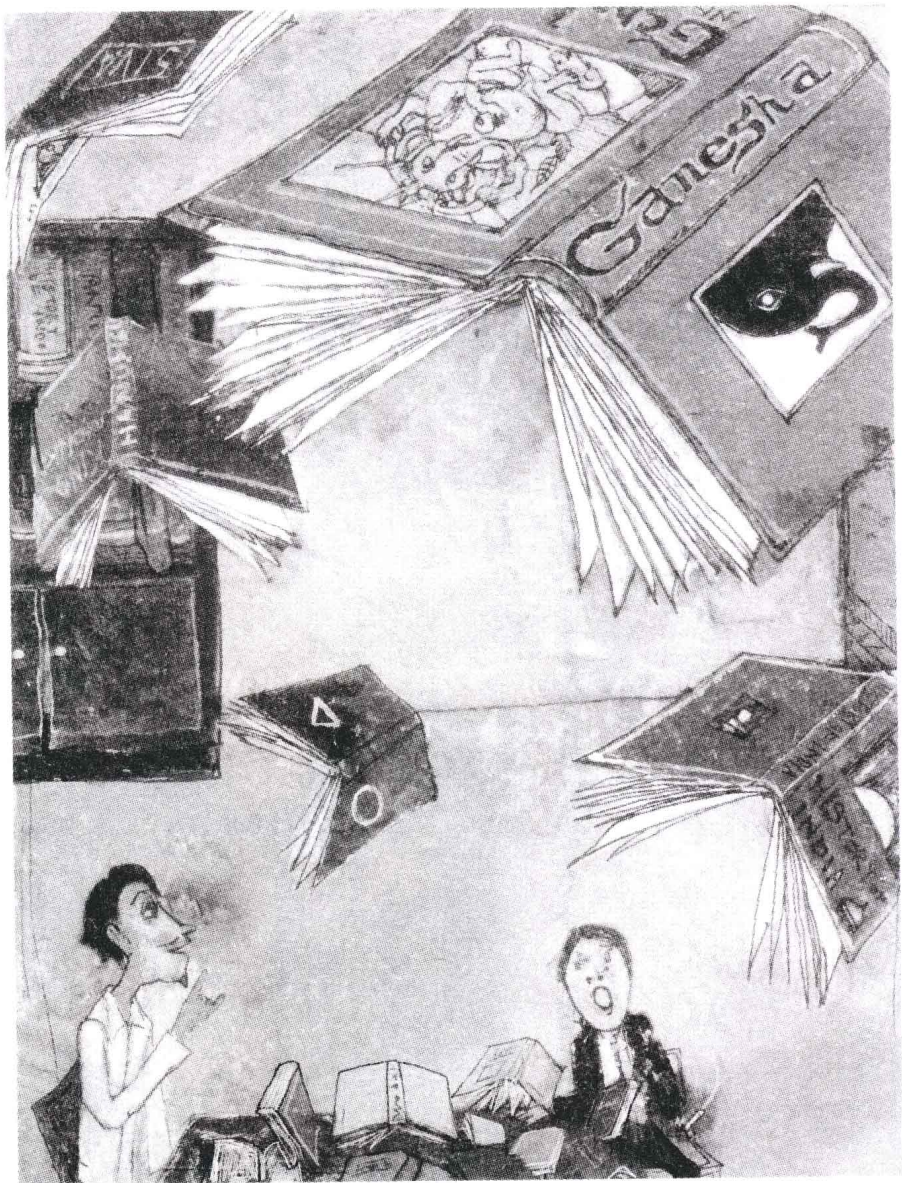
と私が言うと、ミスラ君は、にこにこ笑ったまま、今度はその花をテーブルの上に落とし、落としました。すると、花は布の絵に変わりました。もう手で持つことはできなくなりました。「どうですか。簡単でしょう。あなたが見たければ、もう一つ魔術を見せますよ」



ミスラ君は椅子に座ったまま、後ろの本棚を見ました。そして、手を上げて、また三回、字のようなものを書きました。すると、今度は、本棚に並んでいた本が、一冊ずつテーブルの上まで飛んできました。その飛び方は鳥のようでした。私はびっくりして口を開けたまま、ずっと見ていました。少し暗い部屋の中を、たくさんの本があつちこつちに飛んでいましたが、しばらくするとテーブルの上を下りてきました。初めに一冊。次に、その上に一冊。それから、その上にもう一冊。そして、テーブルの上の本がたくさん下りてきて、山の形を作っていました。全部テーブルの上を下りたと思つたら、すぐに一番初めに来た本から、また一冊ずつ本棚へ飛んで帰っていきます。すると、飛んでいるたくさん本の中から一冊の薄い本が、私のほうへ下りてきました。見ると、それは私の本でした。一週間ぐらい前にミスラ君に貸した、外国の本でした。

「長い間、本をありがとう」

ミスラ君は私に言いました。そのときには、もう他の本は全部本棚に入っていました。私は、すぐには何も言うことができませんでした。



しばらくして、「私の魔術は、使おうと思えば、あなたにも使うことができるのです」というミスラ君の言葉を思い出しました。私は、ミスラ君に聞きました。

「前からあなたの魔術のことは聞いていましたが、今、目の前であなたの魔術を見て、とてもびっくりしました。こんなにすごいものだとは思いませんでした。私にも使うことができるといふのは本当ですか」

「はい。もちろん、本当です。だれにでも簡単にできます。しかし……」

ミスラ君はそう言いながら、私の目を見ました。そして、真面目な顔で言いました。

「しかし、お金持ちになるために魔術を使うことはできません。魔術を勉強しようと思つたら、お金が欲しいという気持ちは捨てなければなりません。あなたにそれができますか」

「できます。魔術を教えてもらうことができれば」

ミスラ君は少し考えていましたが、

「では、教えてあげましょう。しかし、簡単にできると言っても、勉強するのには時間

がかかりますから、今夜は私の家に泊まってください」と言いました。

「どうもありがとうございます、ありがとうございます」

私はうれしくて、ミスラ君に何度も言いました。

ミスラ君は静かに椅子から立ち上がる、

「おばあさん、おばあさん。今夜はお客様が泊まりますから、ベッドの準備をしてください」と言いました。

私はうれしくて、吸っていたタバコを手を持ったまま、ミスラ君の顔をしばらく見上げていました。





ある日、私は友達五、六人と銀座へ行きました。雨が降る夜でした。

わたしがミスラ君に魔術を教えてもらってから、一カ月ぐらい経ちました。